|  |
| --- |
| 名寄市職労青年部  VOL．37　2014年12月 2日 |
| F:\教宣\2014(山田)\素材\0106.jpg  **講演をする川原教諭**  **主催挨拶をする瀧口実行委員長**  11月23日、天塩町で「11・23幌延デ―北海道青年女性学習会」が開催され、３産別１団体153人が結集し、名寄市職労青年部からは11人が参加しました。  ○戦争反対！核を持ち込むな  はじめに、主催者である北海道青年学生平和友好祭実行委員会の瀧口実行委員長（道本部前青年部長）から挨拶がありました。  挨拶では、｢３０年前に幌延町に核の貯蔵する施設を建てるということで、地元の反対が多くあるにも関わらず１１月２３日に現地調査が強行された。それ以来、２９回目となる幌延デーで、地域住民と連帯をして反対運動を進めてきている。  現在、安倍政権が進めてきている特定秘密保護法、集団的自衛権、  防衛装備移転三原則を見ても、私達が置かれている状況が戦争に向かってきている。しかし、幌延を見てもわかるように、たくさんの運動をすることによって、核を持ち込ませていない。幌延の闘いに学びながら、戦争をさせない取り組みをしてほしい｣とお話がありました。  ○原発ゼロは大人の責任！  次に、札幌琴似工業高等学校川原茂雄教諭より、「核のゴミと核燃料サイクルのゆくえ」と題して、講演がありました。  川原教諭からは「原発の使用済み核燃料（原発のうんち）が溜まる一方で、国が進めている核燃料サイクルは世界的にも成功していない。現在も、高速増殖炉もんじゅは停まったままになっており、計画自体すでに破綻してしまっている。原発を維持することで、他国に核の潜在的保有国と位置づけされ『核の潜在的抑止力』になるため、原発を止めることができない」と原子力政策の実態について説明がされました。  また、福島の５歳の女の子が将来の夢に『普通の生活に戻りたい』と書いた手紙を紹介し、「私達大人が子供達にこんな思いをさせてはいけない。原発ゼロにむけて、責任ある行動をしなければならない」と述べました。  さいごに、講演後「第29回11・23幌延デー北海道集会」が、幌延町共進会場で開催され、全道各地から結集した９００人の仲間と一緒に、幌延町をデモ行進しました。 |

